

さぬき・東かがわ支部 活動報告

1 研究主題

「生き抜く力を育むためのメディア教育のあり方」

科書、実物投影機・・・)

イ ICT活用に関する研究討議

2 はじめに

コンピュータやインターネットなどネットワーク環境の普及、スマートフォンやソーシャルネットワークサービスの広がり、私たちは生活をより豊かにすることができるようになった。このような時代を担う子どもたちに必要な能力こそが「生きる力」であり、これらの環境をうまく活用できるようにしなければならない。

学校では、デジタルテレビや電子黒板などが整備され、これらを授業で活用することにより、より豊かな学びの場を提供することが可能になってきた。今後は、タブレットの普及が急速に進むと思われる。これらのICT機器を有効に活用するためには、教職員が機器の特性を理解し、授業や校務での活用方法について、研修を深めることが必要である。そして、機器の持つ特性を最大限引き出し、活用することができれば、より効果的な学習指導ができる。また、そのことによって、生徒の生き抜く力を育むことにもなると考えた。

そこで、本部会では教職員の資質向上を図るため、ICT機器の実技研修会とICT機器を活用した授業研究を企画した。

3 研究計画

(1) 第1回研修会

- ① 日時：5月1日（木）
- ② 場所：さぬき市立さぬき南中学校
- ③ 内容：研究主題・組織・計画の決定
ア 研究の方向性
イ 各校の現状について

(2) 第2回研修会

- ① 日時：7月29日（火）
- ② 場所：東かがわ市立引田中学校
- ③ 内容：実技講習会
ア 実技講習会（WiFi、タブレット、デジタル教

(3) 第3回研修会

- ① 日時：10月16日（木）
- ② 場所：さぬき市立志度中学校
- ③ 内容：研究授業
ア 研究授業・授業討議
イ ICT活用実践に関する発表・討議

4 研究内容

(1) 第2回研修会

- ① 研修テーマ
ICT機器の活用方法を知ろう
- ② 実技講習会
ア 内容「教室でインターネット」
「タブレットを使ってみる」
「書画カメラを使ってみる」

校内の現職教育勉強会で使われているテキストを基にして、説明を受けながら、参加者全員がICT機器を実際に使ってみた。とても分かりやすく構成されており、あっという間に時間が過ぎた。



＜講習で使われたテキストの一部＞

その後、ICTに関する研究討議が行われ「情報モラル」無料出張授業などいろいろな情報が得られた。

(2) 第3回研修会

① 研修テーマ

ICT を授業に生かそう

② 研究授業

ア 題材：いろいろな気体とその性質

イ 目標：

「プレゼンソフトを活用し、実験を通じた水素の発生方法や性質の習得をしやすくする」

ウ 内容

事前に研究授業を録画して、その録画した授業の様子を、参加者が観て、授業討議を行う形式で研修を行った。

授業の中で、プレゼンテーションソフトを活用し、生徒に分かりやすく表示して実験がスムーズに進められているように感じた。実際に、実験方法の提示をプレゼンテーションソフトを使用することによって実験のミスが減っていることが説明された。

討議では、電子黒板の保有台数や使用状況、デジタル教科書の活用、プレゼンの工夫（画面設定や色、アニメーション）等について、活発な討議がなされた。

ICT 機器を使った直接的効果について、「実験の基礎・基本を押さえる。」「思考を広げる、深める」「発表、言語活動」などがあり、目的を明確にする必要がある・・・などいくつかの助言を受けた。



その後、メディア機器活用に関する各校からの発表・質疑応答を行った。タブレットの活用例や、ビデオカメラ、モニターテレビなど多岐にわたる活用の発表があり、広く ICT 機器の活用が浸透していることが改めて分

かった。



5 反省と今後の課題

(1) 今年度の経緯について

本年度は、「ICT に関する実技講習会」と、「ICT を活用した研究授業への取り組み」を中心に活動を行った。実技講習会では、中学校の先生を講師として、WiFi やタブレット、デジタル教科書、実物投影機等の細かな使い方や活用方法について行った。その後の時間には情報モラルに関する提示もあり、有意義な研修となった。また、授業研究では前もって授業を録画し、それを観ての研修という形態をとった。プレゼンソフトのいろいろな使い方やちょっとしたコツなど、いくつかの提案がなされ、これも今後の授業で生かせることがたくさんある有意義な研修会となった。

(2) 来年度へ向けて

本年度は、研究授業形式で研究も行った。実際、ICT 機器を研究授業内の多くの部分で活用するわけにはいかないので、なかなか難しい挑戦だったと思うが、その姿勢は評価できる。また、現在各校へのタブレット等の導入が進んできている。これらの活用についても、もっと研究していかなければならない。

平成 27 年度は、本支部が中心となった県の研究大会がある。今までの研究実践を基にしたすばらしい発表になってほしい。